

施設内での利用者同士の事故対応方針

近年、利用者の障害特性や年齢層の多様化に伴い、これまでも利用者同士の接触やトラブル事案が見られています。事故は未然に防ぐことが何より重要であり、引き続き環境整備や見守り体制の強化に努めてまいります。万一発生した場合においても、施設として責任ある対応を行うことが重要であると考えております。

このたび当法人では、他害行為を含むすべての施設内での事故対応について統一方針を整備いたしました。基本的な考え方としては、事故の責任は施設にあるものとし、利用者個人を責めることはいたしません。また、被害・加害いずれの立場においても、相手の氏名等の個人情報をお伝えせず、施設が責任をもって説明と対応を行います。

事故発生時には、経過や原因を丁寧に説明するとともに、見守り体制や支援方法の見直しなど、再発防止に向けた具体的な対応をお示しいたします。なお、トラブルの拡大や二次的な負担を防ぐ観点から保護者間での直接的なやり取りはせず、原則として施設が一元的に対応いたします。

今後も、職員間での情報共有と組織的な判断を徹底し、利用者の安全と安心を最優先にした支援体制の構築に努めてまいります。引き続きご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



第4期中期運営計画の考え方



第4期計画は、現在進めております第3期計画の成果と課題をしっかりと振り返ったうえで、次の令和9年から令和13年の5年間に向けた法人の方向性を整理するために策定するものであり、策定にあたっての基本的な考え方は、主に以下5点についてであります。

1点目	第3期計画の総括と評価を踏まえるという点です。これまでの取組がどこまで達成できたのか、うまくいった点と課題は何だったのかを整理し、第4期に引き継ぐ内容で見直す内容を明確にしております。
2点目	制度改正や社会情勢の変化を反映した計画とすることです。障害福祉制度の動向や人材確保の状況、地域ニーズの変化を踏まえ、現実的で実行可能な計画とすることを重視します。
3点目	重点課題を明確にし、優先順位をつけるという点です。経営基盤の安定化、サービスの質の向上、人材育成、地域との連携など、法人として特に力を入れる分野を整理し、限られた資源を重点的に配分していきます。
4点目	計画と経営資源との整合性を確保することです。人員体制や財務状況、施設設備の状況を踏まえ、実際に実行できる内容となるよう計画を策定しております。
5点目	関係者との合意形成を重視するという点です。理事会の皆様はもちろん、職員や関係機関とも情報を共有しながら、組織全体で取り組める計画としてまとめていきます。



風 後援会からご入会のお願い

社会福祉法人風後援会は、障害者の自立と三田わくわく村の発展を願って平成7年に発足し、寄付活動や理解啓発活動を進めています。

毎年皆様のご入会（ご寄付）により、送迎車両の購入や雨よけ上屋の整備など、利用者の皆さんの活動環境整備を進めています。

今後、一層活動の輪が広がりますよう本会の趣旨にご賛同いただき、ご入会賜りますようよろしくお願い申し上げます。

なお、今年度より事業所等のみなさん方にもご支援いただきたく賛助会員の入会をお願いしています。

個人年会費 10 1,000 円
事業所等賛助会費 10 3,000 円 振込先は下表のとおりです

金融機関	支店名	口座番号
ゆうちょ銀行		01110-3-66308
三井住友銀行	三田支店（店番 391）	普通 3808145
三井住友銀行	ウッディタウン出張所（店番 395）	普通 3120072

名義は全て『社会福祉法人風後援会』です
【お問い合わせ】

「風」後援会事務局 三田わくわく村大原事業所内
〒669-1515 三田市大原梅ノ木 1546-5
☎079-564-0909

日本財団より送迎車両をいただきました

3月31日の雨の切れ間に、納車式を行いました。日本財団による助成車両は7台目となりました。また今回は、2008年に初めて助成いただいた車両との入れ替えとなりました。18年間と長きにわたり事業に活用させていただき深く感謝申し上げます。

新車は利用者の方の送迎や日中活動に使用します。ご厚意にお答えできますよう大切にかつ有効に使用してまいります。今後ともご支援賜りますようよろしくお願い申し上げます。



風後援会総会のお知らせ

いつも風後援会をご支援いただきましてありがとうございます。令和8年度の総会並びに研修会を下記の日程にて開催いたします。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

日時：令和8年6月7日（日）13時30分～15時00分
場所：三田市総合福祉保健センター 多目的ホール
内容：定期総会、研修会（内容未定）
※今年は開催場所が例年と異なりますのでご注意ください。

これからの予定

★5月22日（金）
事業所交流ハイキング



わくわく通信

発行 社会福祉法人 風
〒669-1515 三田市大原 1546-5
障害福祉サービス（多機能型）
三田わくわく村
(TEL)079-564-0909
(FAX)079-564-8500
(e-mail) sanda.wakuwakumura@giga.ocn.ne.jp
(Hp アドレス) <https://sandawakuwakumura.com/>

令和8年 入所式

4月1日、新年度の始まりと共に令和8年度入所式が大原事業所で行われました。今年度は上野ヶ原特別支援学校卒業生5名の皆様をお迎えしました。内訳は、大原事業所の生活介護事業2名、すずかけ台事業所の生活介護事業2名、本町事業所の就労継続支援B型事業1名で、わくわく村での新しい生活を始めることになりました。本町事業所は平成28年以来10年ぶりの新卒者を迎えました。



理事長や保護者会会長より激励の言葉を、各事業所の先輩利用者さんからは、歓迎の言葉をいただきました。

「ええねん」の音楽に合わせてわくわく村を紹介するムービーを見て、終始和やかな雰囲気の中で式を終えました。入所式当日は小雨の降る中でしたが、満開の桜が新しい門出を祝ってくれているように感じました。

これから大変なことも、楽しいことも、わくわく村の皆で分かち合い、いきいきと充実した日々が送れますように願っています。

社会福祉協議会会長表彰

長年、三田わくわく村の活動にご尽力頂いている方々に、社会福祉協議会の会長表彰が贈られました。いつも多方面から三田わくわく村の活動を支えてくださり、ありがとうございます。これからもどうぞよろしくお願い致します。

受賞された方は、(写真左から)市川修子理事・塚本壽子理事長・山本光洋評議員・殿垣芳昭監事です。



受賞された方々

歓迎のことば



大原事業所



本町事業所



すずかけ台事業所

令和 8 年度事業計画と予算

事業計画(事業・サービスの再編)

令和 8 年度は、新たに 5 名の利用者をお迎えし、総勢 123 名でのスタートとなりました。新たな出会いを大切にしながら、すべての利用者の皆さまが安心して通い続けられる環境づくりに努めてまいります。

さて、近年の利用動向を踏まえ、生活介護事業においては安定したニーズが続く一方、就労継続支援 B 型事業では利用形態の多様化や高齢化が進んでいます。こうした状況を受け、B 型事業と生活介護事業の再編成を進め、それぞれの役割や特色をより明確にしております。特に生活介護においては、利用者特性に応じた配置の見直しを行い、安全性の向上と専門的支援の充実を図っております。

また、利用者の高齢化への対応として、「共生型サービス」の導入を進めております。住み慣れた環境で、なじみの職員による支援を継続できる体制の整備を目指し、年度内の開設に向けて取り組んでまいります。

運営体制の見直しとしては、相談支援事業所を大原事業所から志手原事業所へ移転し、業務の効率化と連携強化を図ります。今後も限られた資源を有効に活用し、より質の高い支援提供に努めてまいります。

さらに、わくわく村は令和 9 年度に創立 30 周年を迎えます。本年度はその準備期間として、保護者会や後援会、関係機関の皆さまとともに記念事業の検討を進めてまいります。あわせて、「第四期中期運営計画」の策定年度でもあり、これからのわくわく村の方向性を見据えた重要な一年となります。

社会情勢の変化や物価高騰、人材確保の課題など、法人運営を取り巻く環境は厳しさを増しておりますが、職員の処遇改善や働きやすい職場づくりにも継続して取り組み、支援の質の向上につなげてまいります。

これからも、地域に根ざした福祉拠点としての役割を果たし、利用者一人ひとりの豊かな生活の実現に向けて取り組んでまいりますので、引き続きご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和 8 年度予算

単位:千円

科目	R8 年度予算(a)	R7 年度決算見(b)	増減(a)-(b)
〈事業活動による収支〉			
就労支援事業収入	15,000	15,000	0
障害福祉サービス等事業収入	310,831	304,594	6,237
経常経費寄附金収入	855	855	0
その他	346	1,748	-1,402
事業活動収入計	327,032	322,197	4,835
事業活動による支出			
人件費支出	212,810	196,796	16,014
事業費支出	37,263	35,638	1,625
事務費支出	35,202	33,656	1,546
就労支援事業支出	15,000	15,000	0
その他	710	699	11
事業活動支出計	300,985	281,100	19,885
事業活動資金収支差額	26,047	41,097	-15,050
その他の収入計	1,000	3,264	-2,264
収入総額	328,032	326,625	1,407
その他の支出計	20,033	19,187	846
支出総額	321,018	300,287	20,731
当期資金収支差額	7,014	26,338	-19,324

予算の概要

令和 8 年度当初予算は、前年度の実績及び新年度の利用状況の見込みを踏まえ、安定した事業運営の継続を基本方針として編成しました。事業活動収支については、障害福祉サービスの安定的な利用を見込み収入を計上しており、職員体制の維持・処遇改善を踏まえた人件費を中心とした支出を見込んでいます。予算全体としての収入総額は、328,032千円、支出総額は321,018千円で、令和 7 年度当初予算に比べて予算規模は増加したものの、収支差額は、+7,014千円とほぼ同等の水準であります。予算の収支を大きく占める事業活動収支差額は、前年度決算見込額に比べて-15,050千円を想定しておりますが、期末の支払資金残高については十分な水準を確保し、今後の施設運営及び事業継続に必要な資金の安定性を維持する内容となっており、依然として健全経営を堅持できると判断しております。しかしながら、現下の不安定な経済情勢を考えると、決して安心できる状況にはありません。今後も更なる収入確保や経費削減などに努めてまいります。

組織及び役職員の配置

総務課

参与 番庄孝夫
施設長 奥貞晴

課長 高原亜理沙
リーダー 秋田光司

大原事業所

生活介護

所長 久保田智文
所長補佐 谷村奈智
リーダー 平阪翔

志手原事業所

就労継続支援 B 型

所長補佐 小田聖子

本町事業所

就労継続支援 B 型

所長 似吹かおり
リーダー 柚木園將之

すずかけ台事業所

生活介護

所長補佐 家次寛治
リーダー 菊池梨沙

放課後等デイサービス

所長補佐 阿部福美

相談支援

所長補佐 坂本慶顕

就労継続支援 B 型

リーダー 田川みゆき

令和 8 年度各事業所の取組

大原事業所(生活介護)

3月に1名、4月に2名の新規利用者を迎え、総勢52名で令和8年度がスタートします。

日々の関わりの中で、それぞれの障害特性に応じた支援内容や、支援方法を検討・実施することで、皆様が安全に安心して過ごすことができる環境づくりに取り組んでいきます。

また、1人1人の個性を大切に、毎日わくわくできるような雰囲気づくりを心掛けていきます。



わくわく農園でのサツマイモの収穫



枝豆作業



電気備材の組み立て作業



ハロウィンイベント

大原事業所(放課後等デイサービス)



絵カードを使った自立課題



利用者による紙芝居

今年度は小学生 11 名、中学生 5 名、高校生 12 名のスタートとなります。年齢や成長していく過程を見極め、発達に合わせた適切な支援を行い、成果に繋がるように努めます。

児童の声・気持ち・強み・好きなことに注目し、わくわくする楽しみのある活動プログラムを提供し、豊かな経験を通して自己肯定感と幸福感を育むと共に、成功体験だけでなく失敗体験も大切に、何事も自分で決めて考えていけるように支援して参ります。

また、自立課題のワークシステムと絵カードによる支援を行い、構造化を図り、利用者が自分から要求し、気持ちを伝える力を養い、見通しを持ち行動できるように取り組んで参ります。



志手原事業所



あまなるクッキー作り

ピーマンの選別

本年度は事業所の特色、魅力である製菓作業を中心とした取り組みを行っていきます。

利用者全員が製菓作業に携われるよう、一人ひとりの特性に応じた工夫ある支援を目指すと共に、既存レシピの見直しや新商品の開発を実施してまいります。

商品の質、魅力を向上させながら、たくさんの人に喜ばれる製菓品を作り、やりがいや達成感を感じられる環境づくりに努めます。また余暇活動では他の事業所とは違う取り組みを行い利用者の皆様にいろんな体験をしてもらいます。



柿と白での餅つき



出来上がった餅は炭で焼いて醤油餅で食べました。

本町事業所

今年度から本町事業所の作業形態は、午前中施設外就労 午後からは室内作業とリサイクル作業中心で行います。

一人ひとりが、意欲を持って作業に取り組むことができるよう、得意なところは認め合い、苦手なところは補い、協力し、お互いに助け合いながら様々な作業に皆で挑戦していただける仲間づくりを目指します。

また、少人数で行動力のあるメンバーが揃っていることを活かし、作業の空き時間を利用して、少しの時間でもリフレッシュできる活動を積極的に取り入れることで、作業意欲に繋げ、『賑やかで楽しい本町事業所』を目標にしています。



九鬼家の清掃作業



小柿で川遊び



公園清掃作業



有馬富士公園の水遊び

すずかけ台事業



室内作業



中央公園の水やり作業

4月より生活介護事業は定員を13名から20名に引き上げ、より多くの利用者の方々を迎えることができるようになりました。ニーズが多様化する中で、より多くの利用者の方々のご希望に合致したサービス提供ができるよう、日々の活動においては作業とウォーキングを基軸としつつ、室内活動も充実させていきます。また、昨年度同様に外出など楽しみや気分転換に繋がる活動も引き続き行い、充実した日々を過ごすことができるようにしていきます。

B型事業においても定員数が現在の18名から20名となります。作業内容では新たにネクスタ、いだかの作業が入りました。ネクスタの作業では資材が多くなり利用者、職員全員がバケツリレーで運び入れるなど、新たな取り組みも始まりました。全員が作業に意欲的に取り組めるように、時間があればウォーキングやレクリエーションなど、気分転換を図ることができる活動もたくさん行っています。

多機能事業所の強みを生かし、生活介護、B型の連携協力を密にし、一体となって取り組んでいきます。



コスモス畑をウォーキング



ハロウィンパーティー